

STAGE+を楽しむ(113)(HP 収載)  
—ドヴォルザークのチェロ協奏曲—

1. 始めに

前報(112)に引き続き、STAGE+のドヴォルザークのチェロ協奏曲の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ドヴォルザークのチェロ協奏曲の演奏を選びました。

アントニン・ドヴォルザーク チェロ協奏曲 ロ短調 作品 104

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー ロココの主題による変奏曲 作品 33

ムステイスラフ・ロストロポーヴィチ (チェロ)

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

ヘルベルト・フォン・カラヤン (指揮)



なお、Universal Music の MQA-CD UCCG-40078 でも同一の収録曲がありますので、比較試聴してみます。

3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpLを接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

STAGE+のドヴォルザークのチェロ協奏曲は、ロストロポーヴィチのチェロは終始滑らかに微妙なボウイングの様子も捉えやすく、カラヤン指揮のオーケストラは、牧歌的な抒情性もダイナミックな盛り上がりも聴かせてくれます。

STAGE+のチャイコフスキーのロココの主題による変奏曲は、これもロストロポーヴィチのチェロの滑らかな音で絶妙なテクニックを再現しています。

これに対し、MQA-CDのドヴォルザークのチェロ協奏曲は、伸び伸びとしたおおらかな響きの良さがあります。

MQA-CDのチャイコフスキーのロココの主題による変奏曲も、同様です。

STAGE+の配信とMQA-CDとを比べると、前者は緻密でディテールの表現に長けていますが、後者は伸び伸びとした響きの良さがあります。

両者ともスピーカーアキュライザーとケーブルチューナーの効果を受けていますが、STAGE+の配信はLANアキュライザーとCrstal EpLの効果加わっています。

#### 4. まとめ

スピーカーアキュライザーの効果によりSTAGE+の配信とMQA-CDともにグレードがあがっていますが、LANアキュライザーとCrstal EpLの効果により、STAGE+の配信はMQA-CDにない、緻密でディテールの表現に長けている良さもあります。

以上